

令和4年2月2日

好評開催中！
<令和3年度 共生システム理工学類 博物館実習履修者の会>
展示「藍」

<令和3年度 共生システム理工学類 博物館実習履修者の会>は、令和4年1月17日（月）から令和4年2月18日（金）まで、本学附属図書館の1階ロビーにおいて、下記のとおり<令和3年度共生システム理工学類 博物館実習履修者の会 展示「藍」>を開催しています。

記

- ◆主催 令和3年度 共生システム理工学類 博物館実習履修者の会
- ◆後援 福島大学貴重資料研究所
- ◆会場 福島大学附属図書館1階ロビー
- ◆期間 令和4年1月17日（月）～ 令和4年2月18日（金）
- ◆趣旨

アイの歴史は古く、エジプトのピラミッドから藍染めの麻布が見つかっており、人類最古の植物染料とされています。日本でも古くから各地で藍染めが盛んに行われていました。江戸時代、奢侈禁止令により贅沢が禁止され、人々の服装が制限されていましたが、藍染めは制限されることがなかったため、江戸の人々の服装として定着していきました。一口に「藍色」といっても、藍白・花浅葱・紺藍・茄子紺などたくさんあり、「藍四十八色」と呼ばれるほどカラーバリエーションが豊富でした。

藍染めというと、徳島県の阿波藍や沖縄県の琉球藍を思い浮かべる方が多いかと思います。今回の展示では、徳島県や沖縄県ではなく、福島県南会津町（奥会津博物館）の藍染めの取り組みについて紹介をしています。1880年代にドイツの化学者アドルフ・フォン・バイヤーがインディゴの合成に成功し、工業的生産方法が確立されたことによって、徐々に天然藍が衰退してしまいました。このことは会津地方の藍産業に大きな影響を与えました。藍染めを衰退させないために少しでも多くの人に藍について興味・関心を持っていただけるよう、今回の展示「藍」では、本学貴重資料保管室の標本や藍染めに関する資料、南会津町の取り組みについて紹介しています。

なお、展示は本学附属図書館で行われておりますが、新型コロナウイルス感染

症の影響により学外の方の入館ができません。展示をご覧になりたい方は、下記の展示見学に関するお問い合わせ先までご連絡ください。

【主な展示資料】

- ① アイ（タデ科）標本（福島大学貴重資料保管室所蔵の標本）
- ② アイの栽培と染づくり（アイの栽培に関する写真と染づくりに関する写真をまとめた書籍）
- ③ 会津の染物（会津で行われている藍染めについて紹介をした書籍）
- ④ 藍染めの手拭い（奥会津博物館で購入した合成藍を用いた藍染めの手拭い）
- ⑤ 南会津町・奥会津町に関する資料（南会津町と奥会津博物館の紹介と奥会津博物館のパンフレット）
- ⑥ 広報みなみあいづ（南会津町で行われている藍染めに関する取り組みをまとめた資料）
- ⑦ 藍四十八色に関する資料（藍四十八色をまとめた資料と解説をつけた資料）

【共生システム理工学類の博物館実習について】

共生システム理工学類では学芸員資格を取るためのカリキュラムを設けており、その中に3年生以上が履修する博物館実習があります。この実習では、本学貴重資料保管室に保管されている資料を用いて整理や保管の仕方を学んだ上で、1週間程度博物館や科学館での実務に携わるほか、大学内で展示の企画・運営を行います。本展示はその一環として実施しています。

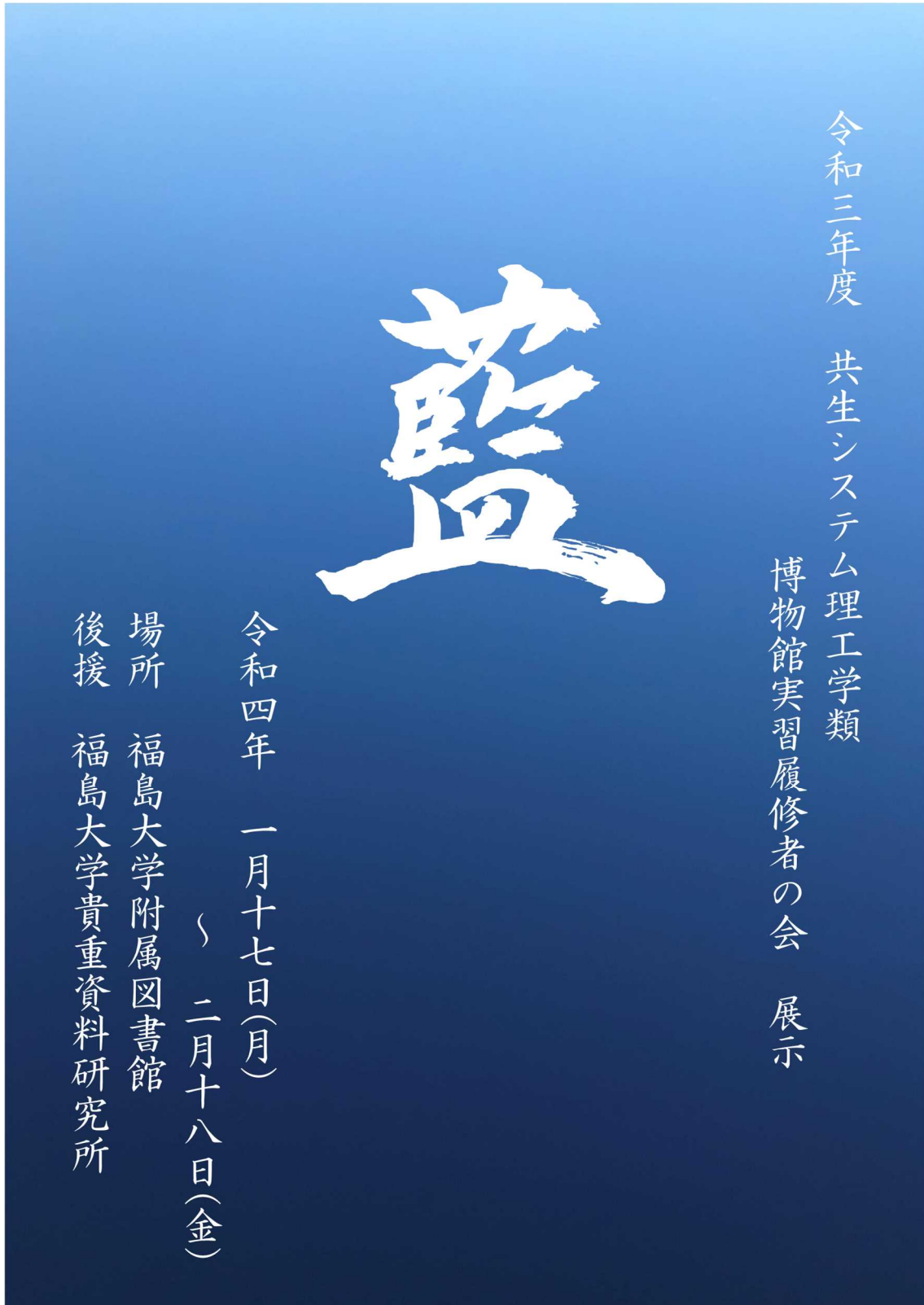
（展示内容に関するお問い合わせ先）

令和3年度 共生システム理工学類
博物館実習履修者の会・3年 早川武流
メール：s1910128@ipc.fukushima-u.ac.jp

（展示見学に関するお問い合わせ先）

共生システム理工学類・教授 黒沢高秀
メール：kurosawa@sss.fukushima-u.ac.jp
電話：024-548-8201

展示「藍」ポスター



令和三年度 共生システム理工学類
博物館実習履修者の会 展示

藍

令和四年 一月十七日(月)
～ 二月十八日(金)

場所 福島大学附属図書館
後援 福島大学貴重資料研究所

展示の様子

